

東海道五十三次道中紹介（伊勢・近江路編）

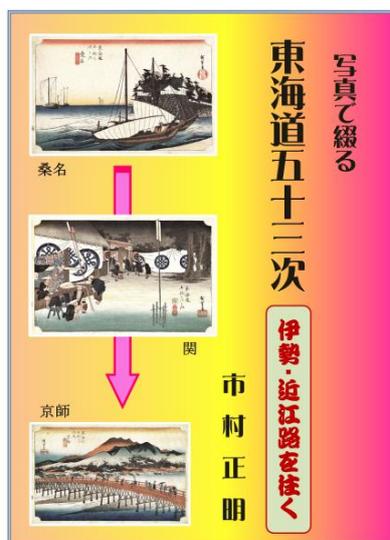
工 39 市村正明

最終回の今回は第四区分の伊勢・近江路を掻い摘んでご紹介します。

IV 伊勢・近江路（桑名～京都間）

今回は桑名から終着の京都間を四回十一日で歩き繋いだものです。

この間は伊勢湾から鈴鹿山脈越え京都に至る街道歩きである。



第 27 回 富田～亀山間

この回は富田から四日市宿、石薬師宿、庄野宿、亀山宿を3日間で訪ねる。

富田は間の宿でおぶけ小向と共に焼蛤で有名だったが桑名藩領であったので桑名の焼き蛤となったようだ。



富田から約一里先の三滝橋から四日市宿である。この辺りを広重が四日市として描いている。

脇本陣跡、問屋場跡、本陣跡があった所には標示もない。唯一、鎌倉時代に創建された諏訪神社が戦災を免れ残っている。東海道がアーケードの商店街という珍しい所だ。

四日市宿から約一里の所に日永追分がある。この追分から伊勢神宮に向かう伊勢街道が始まる。ここに伊勢神



宮の二の鳥居が建っている。一の鳥居は前述の桑名の七里の渡し跡にある。

この追分は四日市宿と石薬師宿の間にあり「間の宿」として随分賑わったようだ。

伊勢路への 日永追分 賑わえり

日永追分から一里弱の所に杖衝坂つえつきがある。名前の由来は日本武尊が東国遠征の帰途、伊吹山で賊と戦い傷を負い、剣を杖の代わりにして坂を上った所から付けられたという。また、芭蕉がこの坂で落馬して詠んだ句碑あり。

歩行ならば 杖衝坂を 落馬かな

約1里先が石薬師宿となる。



この宿には明治の建物だが石薬師寺小沢本陣跡がある。対面には問屋場跡、明治時代の国文学者佐々木信綱生家がある。その先に石薬師寺がある。

石薬師寺は平安初期に弘法大師が一夜で薬師如来像を刻み本尊として建立したという。この辺りを広重は石薬師寺を中心に描いている。

ちと違う 広重描く 石薬師

石薬師宿の西端に一里塚あり。

その先は国道脇の田んぼ道が旧東海道でのんびり歩けると思ったらすぐ国道に戻る。暫くして右折し国道を外れたところから庄野宿に入る。



庄野宿には問屋場跡、本陣跡、高札場跡、脇本陣跡、郷会所跡の石柱や標識はあるが面影は全くない。

唯一、川俣神社の巨木スダジイが歴史の証人というところである。



庄野宿を出たところに鈴鹿川と安楽川が合流するところがある。そこに女人堤防の碑が建っている。

度々氾濫していたこの個所に禁止しされていた築堤を打ち首覚悟で200人の女達が6年がかりで完成させたところである。結末は打ち首は免れ築堤の功として金一封が下賜されたという話である。

東海道とは少し外れるがJR井田川駅の北側に日本武尊の御墓、能褒野公園、能褒野神社がある。

井田川から一里くらい先に石上寺^{せきじょうじ}がある。

石上寺には江戸中期に再建された堂宇がある。(約250年) ここには鎌倉時代から南北朝時代の古文書が残っているという。

すぐ近くに日本橋から104里目の和田一里塚が片側を摸式復元されている。

亀山宿の入口に能褒野神社の二の鳥居あり。その脇に亀山城を巡っての戦死者の供養仏庵、露心庵跡あり。

宿場内の家々に江戸時代の屋号が50軒以上掲げられているので当時の町の構成などを想像しながら歩くのもよい。

亀山は 屋号掲示で 昔知る

亀山宿脇本陣、本陣跡、大手門跡、高札場跡には標識があるが問屋場跡には標識もない。

街道沿いに亀山有数の古刹で室町時代に創建された遍照寺がある。本堂は明治時代に亀山城の二の丸御殿と玄関式台部を移築したものである。



本尊の阿弥陀如来立像は快慶の弟子の行快作とみられる。地蔵菩薩立像は平安後期の作という。

亀山城は秀吉に従った岡本良勝が入城後に亀山城の母体を形成したという。

伊勢亀山城は江戸初期丹波の亀山城と取り違えられて天守を解体されている。代わりに跡地に多門櫓(現存)を建てたという。

伊勢亀山城の詳細はここでは割愛する。

城内には幕末の姿に修復された加藤家の立派な長屋門がある。



亀山宿の西端に京口門跡がある。脇を竜川が

流れこの辺りは急勾配であったようだ。広重画の亀山もこの風景が描かれている。



第28回 亀山～水口間

この回は亀山から関宿、坂下宿、土山宿、水口まで3日間で訪ねる。

京口門跡から約5km先に関宿がある。

途中鈴鹿川の左岸に東海道で2番目の厩太岡寺たいこうじ厩(約2km)がある。当時は松並木だ

ったが現在は一部桜並木となっている。



関宿は鈴鹿峠を控え宿東の追分は伊勢別街道と西の追分は奈良に通じる大和街道との分岐点として重要な宿場で東西1.8kmある。



古い町並みは戦災にも遭わずそ

のまま残った。現在、東海道随一の宿場の景観を残している。(必見)

関宿は 街道一の 名残あり

関宿は御馳走場、芸妓の置屋の開雲楼と松鶴楼、関宿の氏神関神社、旧川北本陣の門、鶴屋脇本陣跡、百六里庭・眺関亭、伊藤本陣跡、旅籠玉屋、福蔵寺（織田信長の三男の信孝が信長の菩提を弔う寺として建立。）地蔵院（綱吉の母桂昌院が信仰した地蔵尊）旅籠会津屋、新所の街並み等どこに行っても雰囲気があり見所満載である。



関宿から約一里先に坂下宿がある。



道中筆捨山が正面に見えるこの辺りを広重が絵にしている。

鈴鹿峠の麓の坂下宿まで上りが続く。鈴鹿峠を控えていたので随分賑わったのだろうが松屋・梅

屋・大竹屋本陣跡の標識があるのみで宿場の面影はない。

岩屋観音あたりが坂下宿の西の出入り口だった。

暫く進むと元坂下一里塚がある。この辺りは元坂下宿があった所で慶安3年（1650）の大洪水で壊滅し下流の坂下宿に移ったという。



暫く行くと鈴鹿峠の入口の片山神社がある。ここから鈴鹿峠（標高378M）越えとなる。「東の箱根、西の鈴鹿」といわれた難所であり蛭に悩まされる峠道である。

蛭に気を付けながら進むとあっという間に登ってしまった。箱根に比べればはるかに楽であった。

猛暑でも 難所鈴鹿を 楽に超え

峠頂上には茶屋跡が記されていたが今はこの街道は寂れて雑木林である。

山道を下った所に坂上田村麻呂を主祭神として弘仁3年（812）創建された田村神社がある。

すぐ土山宿である。土山宿は京から江戸に向かう人にとっては鈴鹿峠を前にした宿場で賑わった。



土山宿には東海道で現存する3本陣の中で唯一御子孫がお住いの土山家本陣跡がある。

住みながら 本陣残す 道険し

他に堤家本陣跡、問屋場跡、大黒屋本陣跡、高札場跡、陣屋跡は表示や石碑があるのみである。

土山宿を過ぎると東海道は野洲川（昔松尾川）を渡ることになるが松尾の渡し跡は明確ではない。



約2km先に垂水斎王頓宮跡がある。斎王（天皇が即位される度に天皇の御名代としての皇女）は京都から伊勢の斎宮まで5泊6日で行かれた。道中に勢多、甲賀、垂水、鈴鹿、一志に宿泊場所頓宮が建立された。現在ではこの垂水の頓宮のみが残っている。

ここから先、単調な街道を約2里歩くと水口宿である。

第29回 水口～大津間

この回は水口宿から石部宿、草津宿、大津を三日間で訪ねる。

水口宿は水口城の城下町で防御も兼ねた街造り（三筋の道）が特徴的である。



三筋道 戦略感ず 街造り

脇本陣跡は面影が残っているが本陣跡は指標のみで代々引き継いで行く事の難しさを感じる。

大岡寺だいこうじという古刹があるが本堂の傷みがひどく屋根は今にも崩れそうで近寄りがたかった。時代の流れか維持するのが難しそうだ。

家康と縁の深い家松山大徳寺がある。家康の家と松平の松、徳川の徳の字を賜っている。



水口神社は水口宿の産土神うぶすながみである。神社の水口曳山祭りが有名で最盛期には30基が巡行したという。

水口城は家光上洛時の宿泊所として小堀遠州が作事奉行となって造営したという。

水口城詳細は割愛する。



防御を考えた百軒長屋跡は珍しい。



大池寺

水口宿の北2km位の所に天平年間に行基菩薩が開創されたという大池禅寺がある。ここには甲賀3大仏の一つ丈六坐像、釈迦如来坐像と江戸初期寛永年間に小堀遠州作といわれる蓬莱庭園がある。

この先から横田の渡しまで約一里一直線の北脇路がありその先に横田の渡し跡あり。

横田川（現野洲川）は幕府管理下にあり架橋は許されず原則渡船、渇水期は仮設の橋を設けた。

横田川を渡った所に天保義民之碑がある。

この碑は、検地に反対して一揆をおこし検地延期を勝ち取ったが首謀者は捕らえられ処刑された。

明治時代に大赦され碑が建立されたものである。

約二里先に石部宿がある。

途中奈良時代に天井川になった大沙川おおすながわの隧道や、弘法大師が植えたといわれる弘法杉、立場跡と夏見一里塚跡は説明版があるのみである。

石部宿には東に吉姫神社、西に吉御子神社よしみこがある。



吉姫神社

吉姫神社の本殿は天文3年（1534）のもの、狛犬は南北朝時代（1300年代）の作。

吉御子神社よしみこの本殿は京都上賀茂神社の旧社殿を慶応元年（1865）に移築したもの。

宿内には東見附跡、高札場跡、問屋場跡、石部城跡、問屋場跡、三大寺本陣跡、小島本陣跡、田楽茶屋、西木戸跡の立派な立標示があったが何処も面影なし。

石部宿先に上道、下道、金山の跡がある。下道を野洲川の洪水で通行不可となり金山を迂回する上道に付け替えたという。当時金山銅を掘ったらしい。余談だが「石部金吉」という言葉はここから出たといわれている。



新善光寺

上道下道合流点から約一里弱の所に新善光寺がある。

建長五年（1253）に長野善光寺の如来の分身を安置、その後寛文元年（1661）「如来堂」から「新善光寺」に改名されその後地方屈指の名刹となった。

すぐ近くに旧和中散本舗の大角家住宅、隠居所がある。こ



旧和中散本舗

の辺りは梅木の中の宿で大角家は小休み本陣でもあった。江戸中期の建物で立派に歴史を残している。

一里先強の所に目川立場跡がある。田楽茶屋（元伊勢屋跡、古じま屋跡、京伊勢屋跡）が並ぶ。



広重も石部目川の里として五十三次画にしている。

すぐ草津川の土手に突き当たる。川沿いを少し下った所に草津川川越場跡あり、対岸側には横町道標がある。

ここから草津宿である。



草津追分

草津は東海道と中山道の分岐点であり、追分道標が建つ。同じところに草津宿高札場跡がある。

草津宿 追分有りて 賑わえり

草津宿には田中七左衛門本陣と田中九蔵本陣の2軒あったが、現在田中七左衛門本陣が残っている。東海道で現存する3本陣の中で最大規模



田中七左衛門本陣跡

のものである。建物は弘化3年（1846）～文久3年（1863）の頃のもので建坪468坪の平屋で部屋数39、畳268畳、表門、玄関、広間、上段の間、本陣家族住居等々よく保存されている（必見）

本陣の 繁栄浮かぶ 佇まい

宿内には脇本陣跡、田中九蔵本陣跡、問屋場跡、貫目改所跡が認識できる。

常善寺は天平時代に創建された古刹で江戸時代には草津で最重要なお寺であった。本尊阿弥陀如来坐像、観音・勢至両観音立像は共に木造寄木造りで建長5年（1253）の墨書銘有。国指定の文化財である。台座は寄木造り漆箔の九重蓮華坐南北朝時代の代表作。

草津宿の西に立木神社がある。

称徳天皇が神護景雲元年（767）この地に神殿を創建されたのが始まりという古社である。江戸時代には膳所城主の崇敬が篤かった。

この近くに草津宿の西の出入り口黒門跡があったというのが今は表示もない。

約2km先に姥が餅屋跡、矢橋道標がある。

矢橋道標はここから25丁先に矢橋湊があり、大津の石場への湖上一里の舟渡し場の道標である。この辺りが矢倉立場で草津名物の姥が餅屋があった。



広重が草津としてこの姥が餅屋を描いている。

野路は平安朝、鎌倉時代にかけて東海道の宿駅として栄えた所であるが、草津宿がクローズアップされるようになり寂れていった。今は野路菵の玉川という復元庭がある程度である。

野路一里塚から約2里先の瀬田の唐橋の手前に建部大社がある。

建部大社は白鳳4年（675）瀬田に遷座、近江国の一の宮で守護神でもある。



瀬田の唐橋は京都と東国を結ぶ重要な橋で壬申の乱、承久の乱等古代、中世を通じて戦乱の舞台となっている。「瀬田を制する者は天下を制す」とまで言われている。現在の橋は昭和54年かけ替えられたものである。

いくさごと
戦毎 橋が消え失す 瀬田の唐橋

第30回 瀬田の唐橋～京都三条大橋間

この回は瀬田の唐橋から大津宿、京都三条大橋まで二日間で訪ねる。



瀬田の唐橋の近くに石山寺があるがここでは割愛する。

瀬田の唐橋を渡って石山駅を過ぎた所は昔、栗津の松原で木曾義仲が討たれた所である。

間もなく膳所城の勢多口総門跡あり。ここから北総門跡までが膳所城の城下町である。

城内の若宮八幡神社、篠津神社、膳所神社には膳所城の城門が明治初期に移築されており一見の価値あり。

膳所城の 御門を残す 神社群



琵琶湖に突き出た膳所崎に湖水を利用した膳所城があったが、現在は城址公園となっている。家康が西の大名に対する防御拠点として大津城を移築して膳所城とした。

石場立場の手前に義仲寺があり、木曾義仲の墓、義仲の愛妾巴御前の墓、松尾芭蕉の墓がある。

石場の立場には草津の矢倉の渡し場まで渡る石場の渡し場跡があった所だが埋め立てられて今はない。

大津宿に入り京町の交差点が札ノ辻であり高札場跡、問屋場跡が



あったところである。東海道はこの交差点を左折する。さらに本陣跡の標識あり、脇本陣跡の標識はないが向かいにあったらしい。

さらに進むと弘仁13年(822)逢坂山を越える旅人の守護神を祀った蟬丸神社下社、上社がある。

坂の途中に逢坂の関碑があるが関所の場所のはっきりしないとする。逢坂の関は大化2年(646)京都を守る三関の一つである。他に鈴鹿の関、不破の関があった。

大津、京都間は物資を運ぶ主要道で牛車専用道路として花崗岩の切石を敷き並べ牛車の通行に役立てたという。(一部街道沿いに展示有)



逢坂を越えた所に「走井茶屋」があった。広重の絵にこの様子が描かれている。

京近し 逢坂の関 軽く越え

更に進むと追分道標がある「右京みち」(東海道)「左ふしみみち」(京街道)とある。

東海道五十七次はこの追分から伏見宿、淀宿、枚方宿、守口宿の四宿を経て大阪の京橋に至る京街道を進むことになる。



京都に入るにはもう一つ日の岡峠を越えることになるのだがその手前に天智天皇陵がある。

かなりの坂道の日の岡峠を越えた所の粟田口が京への出入り口となる。ここには刑場跡がある。明智光秀の首が晒された所である。

街道脇に明治時代に物資輸送に知恵を絞ったインクラインの展示有。明治23年から昭和26まで稼働していた。これを見ると江戸時代の牛車で物流がいかに大変だったかが理解できる。

坂を下った所が京都の町である。足取り軽く鴨川に架かる三条大橋を渡る。

東海道五十三次完歩である



伊勢・近江路（桑名～京都）記 録

期間	2018/6～2018/10	延日数	11日
東海道五十三次	約115km	実歩行距離	約187km
歩行歩数	約26万歩	撮影写真枚数	1,665枚
纏めたPPT	468ページ	製本ページ	234ページ

喜寿越えて 五十三次 歩きたり 旅の証に 記録とどめん

東海道五十三次（日本橋～京都） 全記録

期間	2016/9～2018/10	延日数	48日
東海道五十三次	約492km	実歩行距離	約770km
歩行歩数	約110万歩	撮影写真枚数	6,800枚
纏めたPPT	1900ページ	製本ページ	950ページ

東海道五十三次の道中紹介にお付き合いいただき有難うございました。

日本橋から京都の長丁場、時代の違う事象が羅列されていて理解するのに苦労されたことと思います。東海道五十三次はこの紹介記事と今回作成した写真集全4冊を見ながら読み進めていただくともっと深く東海道及び史実が理解できるのですが、写真集は膨大過ぎて見て頂けないのが残念です。

東海道五十三次に興味ありどうしても製本版が見たいという方は次の方法があります。

- ① 社友会の事務局に「写真で綴る東海道五十三次」全四巻を収録したCD版を届けてありますので興味のある方はどうぞご覧ください。
- ② 国立国会図書館、川崎市麻生図書館に納本済みです。両図書館では閲覧できます。
- ③ 第1冊の箱根路は電子書籍を令和2年9月15日に「22世紀アート社」から書名を変えて「フォト・ログ 東海道（五十三次箱根路編）」として出版しました。（22世紀アートのHPに紹介されています。）アマゾン キンドルにて読めますのでご覧ください。

電子書籍は格安で入手でき、携帯も楽です。

電子書籍に興味のある方は、22世紀アート社のHPの右側に「電子書籍読み方ガイド」が開設されているので参照ください。

- ④ 製本版は僅かですが当方に手持ちがあります。ご相談には応じられます。必要ならご連絡ください。

